

(分析編)

1. 重要度、満足度について

分析を行うに際して、重要度、満足度（不満度）という指標を用いている。

(1) 重要度、満足度の平均得点について

各分野の取組の重要意識及び満足意識の各選択肢に得点をつけ、平均得点を算出したものである。得点配分は下表のとおりとなっている。選択肢に重みをつけることから、回答者の重要意識・満足意識の差を反映したより深い分析が可能となる。結果を基に44項目の重要度・満足度の現状や、重要度と満足度の関係等を分析する。

得点配分

重要度	満足度	ポイント
重要	満足	+ 2
どちらかといえば重要	どちらかといえば満足	+ 1
どちらともいえない	どちらともいえない	± 0
どちらかといえば重要でない	どちらかといえば不満	- 1
重要でない	不満	- 2
わからない、無回答		± 0

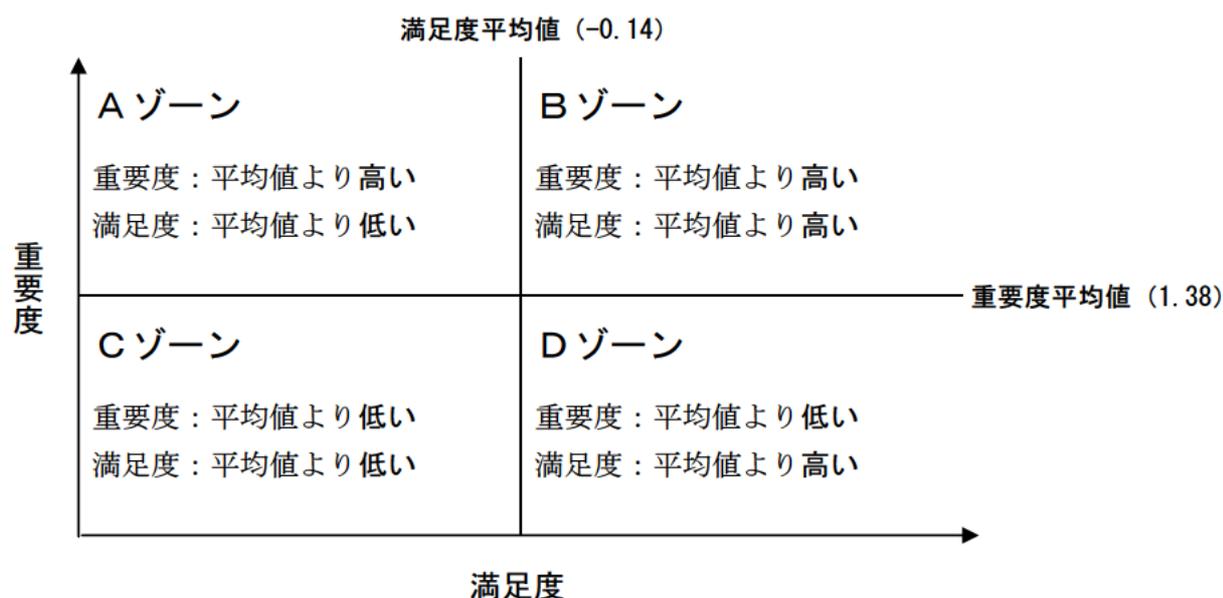
$$\text{重要度} = \frac{\text{「重要」} \times 2 + \text{「どちらかといえば重要」} + \text{「どちらかといえば重要でない」} \times (-1) + \text{「重要でない」} \times (-2)}{\text{「わからない」「無回答」を除く有効回答者数}}$$

$$\text{満足度} = \frac{\text{「満足」} \times 2 + \text{「どちらかといえば満足」} + \text{「どちらかといえば不満」} \times (-1) + \text{「不満」} \times (-2)}{\text{「わからない」「無回答」を除く有効回答者数}}$$

(2) 重要度、満足度のプロット図

満足度を横軸に、重要度を縦軸にとって 44 項目の回答結果をプロットすると、まず、重要度についてはすべての項目でゼロ以上となっており、県民は 44 項目のいずれについても重要だと感じていることがわかる。

また、44 項目の重要度と満足度のそれぞれの平均値（重要度平均値 1.38、満足度平均値 -0.14）によって分けられた 4 つのグループについて、以下のとおり考えられる。



A 重要度が平均値より高く、満足度が平均値より低い項目

グラフ左上に位置する項目は、施策の必要性は十分認識されているものの、特に取組の推進や改善に対する県民のニーズ(期待)が高い項目と考えられ、従来の施策の取組方向について、さらに改善を検討する必要がある。

B 重要度、満足度ともに平均値より高い項目

グラフ右上に位置する項目は、施策の必要性について十分認識され、その取組にも満足されている項目と考えられ、今後も現在の水準を維持するため、着実に取組を推進する必要がある。

C 重要度、満足度ともに平均値より低い項目

グラフ左下に位置する項目は、他の施策と比較してその必要性の認識が低く、取組の推進や改善に対するニーズが高い項目と考えられ、施策の重要性をさらに認知してもらえよう取組とともに、従来の施策の取組方向の改善を検討する必要がある。

D 重要度が平均値より低く、満足度が平均値より高い項目

グラフ右下に位置する項目は、他の施策と比較してその必要性の認識が低いものの、取組には満足されている項目と考えられ、現状どおりの着実な取組の推進とともに、施策の重要性についてさらに認知してもらえよう取組を進める必要がある。

また、圏域別や認知状況による違い等を分析する際、県全体の重要度、満足度と比較するため、図中に県全体の重要度、満足度の平均ラインを点線で示している。

2. 県行政の取組 44 項目に対する重要度、満足度

(1) 重要度、満足度の結果

平成 16 年度における県行政の取組に対する重要度、満足度の平均得点の結果は、以下のようになった。

表 平成 16 年度の重要度、満足度

順位	項目	重要度	項目	満足度
1位	13.防犯	1.84	44.飲料水の供給	0.45
2位	44.飲料水の供給	1.84	20.自然環境との共生	0.34
3位	18.医療体制	1.81	35.情報ネットワーク	0.23
4位	23.きれいな空気	1.78	08.歴史・文化遺産	0.20
5位	24.川や海の水質	1.77	16.保健予防体制	0.17
6位	10.地域での防災の取組	1.74	01.人権尊重	0.16
7位	11.災害対策	1.74	02.生涯学習	0.15
8位	04.青少年の健全育成	1.73	14.食の安全	0.12
9位	12.交通安全	1.73	23.きれいな空気	0.11
10位	14.食の安全	1.72	15.高齢者、障害者の社会参加	0.02
11位	03.学校教育	1.69	06.市民活動	0.00
12位	31.雇用	1.69	19.福祉サービス	0.00
13位	25.地球温暖化防止	1.66	18.医療体制	-0.01
14位	17.子育て環境	1.64	21.希少な生物	-0.03
15位	01.人権尊重	1.62	39.港の整備	-0.06
16位	19.福祉サービス	1.60	28.観光	-0.07
17位	16.保健予防体制	1.58	09.スポーツ・レクリエーション	-0.08
18位	22.ごみの減量	1.52	17.子育て環境	-0.09
19位	43.エネルギー	1.44	34.広域交流・連携	-0.09
20位	40.快適なまちづくり	1.42	11.災害対策	-0.13
21位	20.自然環境との共生	1.36	37.道路の整備	-0.13
22位	38.公共交通機関	1.36	07.文化・芸術	-0.14
23位	30.地域商工業	1.35	36.高速交通網	-0.14
24位	15.高齢者、障害者の社会参加	1.30	22.ごみの減量	-0.15
25位	02.生涯学習	1.29	05.高等教育機関	-0.16
26位	37.道路の整備	1.29	33.国際化	-0.16
27位	32.職業能力開発	1.27	29.技術開発	-0.18
28位	26.農林水産業の振興	1.25	27.産業振興	-0.19
29位	27.産業振興	1.25	03.学校教育	-0.23
30位	05.高等教育機関	1.18	41.農山漁村づくり	-0.26
31位	29.技術開発	1.18	10.地域での防災の取組	-0.28
32位	28.観光	1.14	43.エネルギー	-0.28
33位	34.広域交流・連携	1.14	42.過疎地域等の振興	-0.30
34位	09.スポーツ・レクリエーション	1.08	25.地球温暖化防止	-0.31
35位	36.高速交通網	1.08	26.農林水産業の振興	-0.32
36位	41.農山漁村づくり	1.07	40.快適なまちづくり	-0.32
37位	21.希少な生物	1.06	24.川や海の水質	-0.34
38位	08.歴史・文化遺産	1.05	32.職業能力開発	-0.37
39位	35.情報ネットワーク	1.05	12.交通安全	-0.38
40位	06.市民活動	0.94	38.公共交通機関	-0.39
41位	42.過疎地域等の振興	0.94	13.防犯	-0.45
42位	33.国際化	0.90	04.青少年の健全育成	-0.46
43位	07.文化・芸術	0.86	30.地域商工業	-0.76
44位	39.港の整備	0.75	31.雇用	-0.82
	重要度平均	1.38	満足度平均	-0.14

(2) 重要度について

表 重要度上位 10 項目

	平成 16 年度	平成 10 年度	平成 12 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
第 1 位	13.防犯	44.飲料水の供給	44.飲料水の供給	44.飲料水の供給	44.飲料水の供給
第 2 位	44.飲料水の供給	22.ごみの減量	22.ごみの減量	25.川や海の水質 10.地域での防災の取組	10.地域での防災の取組
第 3 位	18.医療体制	25.川や海の水質	25.川や海の水質	組	11.災害対策
第 4 位	23.きれいな空気	23.きれいな空気	24.きれいな空気	11.災害対策	13.防犯
第 5 位	24.川や海の水質	18.医療体制	18.医療体制	18.医療体制	18.医療体制
第 6 位	10.地域での防災の取組	10.地域での防災の取組	10.地域での防災の取組	23.ごみの減量	03.学校教育
第 7 位	11.災害対策	11.災害対策	04.青少年の健全育成	13.防犯	25.川や海の水質
第 8 位	04.青少年の健全育成	12.交通安全	11.災害対策	24.きれいな空気	23.ごみの減量
第 9 位	12.交通安全	03.学校教育	03.学校教育	12.交通安全	12.交通安全
第 10 位	14.食の安全	04.青少年の健全育成	13.防犯	04.青少年の健全育成	04.青少年の健全育成

平成 16 年度の重要度の上位 10 項目は、「防犯」「飲料水の供給」「医療体制」「きれいな空気」「川や海の水質」「地域での防災の取組」「災害対策」「青少年の健全育成」「交通安全」「食の安全」の順となっている。また、上位 10 項目について、重要意識と順位は異なっているものの、すべて同じ項目がランクインされている。

重要度を属性でみると、若年層で高い項目は「生涯学習」「学校教育」等の教育に関する項目、「地域での防災の取組」「防犯」「食の安全」等の安全面に関する項目、「子育て環境」等の子育てに関する項目、「自然環境との共生」等の環境に関する項目となっている。高年層では、「農林水産業の振興」「産業振興」「観光」「技術開発」「地域商工業」等の地域産業の発展に関する項目の他、「ごみの減量」等が高くなっている。また、県南部で「道路の整備」「高速交通網」等の道路に関する項目、「雇用」「農林水産業の振興」「産業振興」「職業能力開発」等の雇用や産業に関する項目が高く、乳幼児や小中学生のいる世帯では教育関係、保育関係に関する項目が高い。(集計資料 p 7～50)

平成 10 年度からの推移をみると、「飲料水の供給」は平成 10 年度からの調査の中でも常にトップとしてあげられ、県民にとって常に重要性が高いことがうかがえる。「防犯」は、平成 12 年度から上位 10 項目にあげられて徐々にあがってきており、今回では 1 位となっている。「災害対策」「地域での防災の取組」など地域防災活動への取組、「医療体制」「食の安全」など安心な生活を送るための取組や、「青少年の健全育成」「学校教育」など次世代を育むための取組、「きれいな空気」「川や海の水質」など環境に対する取組が上位 10 項目にあげられている。

(3) 満足度について

表 満足度上位 10 項目

	平成 16 年度	平成 10 年度	平成 12 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
第 1 位	44.飲料水の供給	08.歴史・文化遺産	08.歴史・文化遺産	08.歴史・文化遺産	08.歴史・文化遺産
第 2 位	20.自然環境との共生	01.人権尊重	44.飲料水の供給	※情報ネットワークの整備	※情報ネットワークの整備
第 3 位	35.情報ネットワーク	44.飲料水の供給	01.人権尊重	01.人権尊重	44.飲料水の供給
第 4 位	08.歴史・文化遺産	16.保健予防体制	39.港の整備	02.生涯学習	02.生涯学習
第 5 位	16.保健予防体制	39.港の整備	16.保健予防体制	29.港の整備	※情報教育
第 6 位	01.人権尊重	14.食の安全	11.災害対策 02.生涯学習	18.保健予防体制	01.人権の尊重
第 7 位	02.生涯学習	09.スポーツ・レクリエーション		44.飲料水の供給	※国際的な環境保全への協力
第 8 位	14.食の安全	02.生涯学習	※情報ネットワークの整備	09.スポーツ・レクリエーション	39.港の整備
第 9 位	23.きれいな空気	34.広域交流・連携	09.スポーツ・レクリエーション	※自然に親しむ場の整備 21.希少な生物	09. スポーツ・レクリエーション
第 10 位	15.高齢者、障害者の社会参加	※情報ネットワークの整備	10.地域での防災対策の取組		※自然に親しむ場の整備

注 1) 「※情報ネットワークの整備」「※情報教育」については、平成 10 年度～平成 15 年度までそれぞれ独立の項目であったが、平成 16 年度は統合し「35. 情報ネットワーク」という新項目になっている。

注 2) 「※自然に親しむ場の整備」については、平成 10 年度～平成 15 年度まで独立された項目であったが、平成 16 年度は「自然環境の保全」と統合し「20. 自然環境との共生」という新項目になっている。

注 3) 「※国際的な環境保全への協力」については、平成 16 年度では廃止している。

平成 16 年度の満足度の上位 10 項目は、「飲料水の供給」「自然環境との共生」「情報ネットワーク」「歴史・文化遺産」「保健予防体制」「人権尊重」「生涯学習」「食の安全」「きれいな空気」「高齢者、障害者の社会参加」の順となっている。また、上位 10 項目について満足意識と比較すると、満足意識では上位にあげられていない「保健予防体制」「高齢者、障害者の社会参加」が、それぞれ 5 位、10 位にあげられており、満足意識であげられている「医療体制」「道路の整備」は、満足度では上位から外れている。また、「情報ネットワーク」は、満足意識では 10 位であるのに対し、満足度では 3 位にあげられている。

平成 10 年度からの推移をみると、「飲料水の供給」は常に上位にあげられていたが、今回は 1 位となっており、この項目は重要度、満足度ともにトップである。「食の安全」「きれいな空気」「高齢者、障害者の社会参加」は今回初めて上位 10 項目にあげられている。「歴史・文化遺産」は、これまで常にトップにあった項目だが、今回は 4 位にあげられている。

(4) 不満度について

表 不満度上位 10 項目

	平成 16 年度	平成 10 年度	平成 12 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
第 1 位	31.雇用	24.川や海の水質	24.川や海の水質	31.雇用	31.雇用
第 2 位	30.地域商工業	43.エネルギー	31.雇用	24.川や海の水質	30.地域商工業
第 3 位	04.青少年の健全育成	31.雇用	43.エネルギー	30.地域商工業	18.医療体制
第 4 位	13.防犯	23.きれいな空気	23.きれいな空気	43.エネルギー	13.防犯
第 5 位	38.公共交通機関	22.ごみの減量	04.青少年の健全育成	18.医療体制	24.川や海の水質
第 6 位	12.交通安全	41.農山漁村づくり	30.地域商工業	41.農山漁村づくり	04.青少年の健全育成
第 7 位	32.職業能力開発	30.地域商工業	41.農山漁村づくり	40.快適なまちづくり 23.きれいな空気	15.高齢者、障害者の 社会参加
第 8 位	24.川や海の水質	40.快適なまちづくり	22.ごみの減量	15.高齢者、障害者の社 会参加	43.エネルギー 41.農山漁村づくり
第 9 位	40.快適なまちづくり 26.農林水産業の振興	15.高齢者、障害者の社 会参加	40.快適なまちづくり	15.高齢者、障害者の社 会参加	
第 10 位		18.医療体制	18.医療体制	04.青少年の健全育成	40.快適なまちづくり

平成 16 年度の不満度の上位 10 項目（満足度の下位 10 項目）は、「雇用」「地域商工業」「青少年の健全育成」「防犯」「公共交通機関」「交通安全」「職業能力開発」「川や海の水質」「快適なまちづくり」「農林水産業の振興」の順となっている。また、上位 10 項目について不滿意識と比較すると、不滿意識では上位にあげられなかった「職業能力開発」「農林水産業の振興」が、それぞれ 7 位、10 位にあげられており、不滿意識で上位にあげられていた「地域での防災の取組」「道路の整備」は、不満度では上位から外れている。

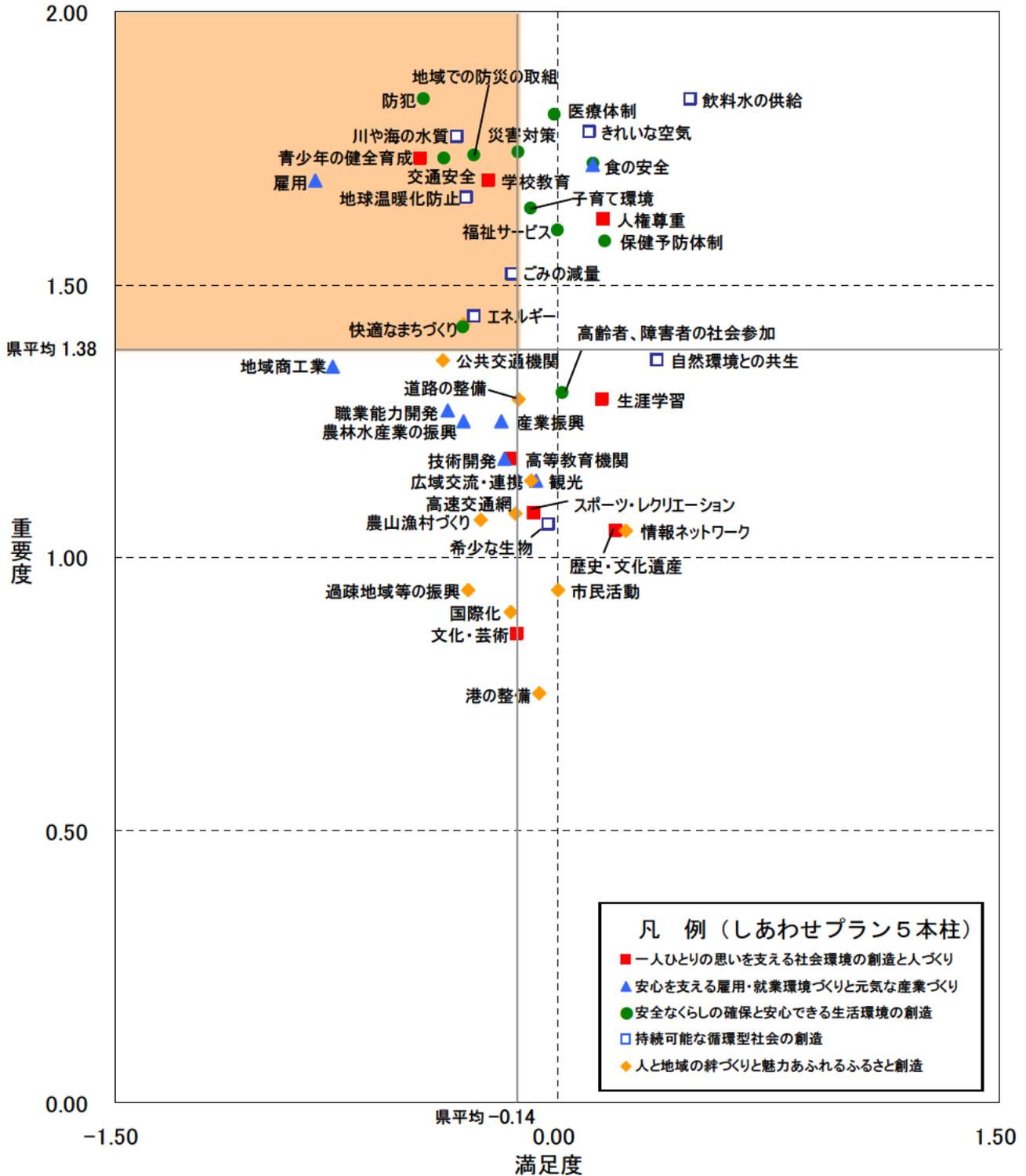
満足度、不満度を属性で見ると、ほとんどの項目で若年層の不満度が高い傾向がみられる。また、県南部では「青少年の健全育成」「自然環境との共生」「きれいな空気」等は満足度が比較的高いが、それ以外の多くの項目で満足度は低く、特に「道路の整備」「高速交通網」「公共交通機関」等の交通関係の項目や「雇用」「地域商工業」「産業振興」等雇用・産業に関する項目、「医療体制」等で不満度が高い。一方、県北部では「地域での防災の取組」「防犯」「ごみの減量」「川や海の水質」等の項目で不満度が高くなっている。学生は多くの項目で満足度が低く不満度が高い傾向にある。また、全体的に県外在住経験有の人が、県外在住経験無の人より不満度が高くなっている。（集計資料 p51～94）

平成 10 年度からの推移をみると、「雇用」は平成 14 年度から常にトップとなっており、雇用に対する県民の不安、不満が解消されていない現状がうかがえる。「地域商工業」は平成 10 年度から徐々に順位があがっており、平成 15 年度、16 年度では 2 位となっている。「青少年の健全育成」「快適なまちづくり」は常に上位を占め、「防犯」は平成 15 年度から 4 位と続いている。「交通安全」は今回初めて 6 位としてあげられている。また、従来は上位にあげられていた「エネルギー」「きれいな空気」「農山漁村づくり」については順位が下がり、上位 10 項目から姿を消している。

3. 重要度、満足度プロット図

(1) 重要度、満足度プロット図

図 重要度と満足度の関係（平成16年度）



図は横軸に満足度、縦軸に重要度をとり、各項目をプロットしたものである。重要度については、すべての項目でゼロ以上となっており、県民はどの項目も重要に感じている傾向がみられる。

取組の推進や改善に対する県民のニーズ(期待)が高いAゾーンの項目としては、「雇用」「防犯」「青少年の健全育成」「交通安全」「川や海の水質」「地域での防災の取組」「地域温暖化防止」等があげられる。

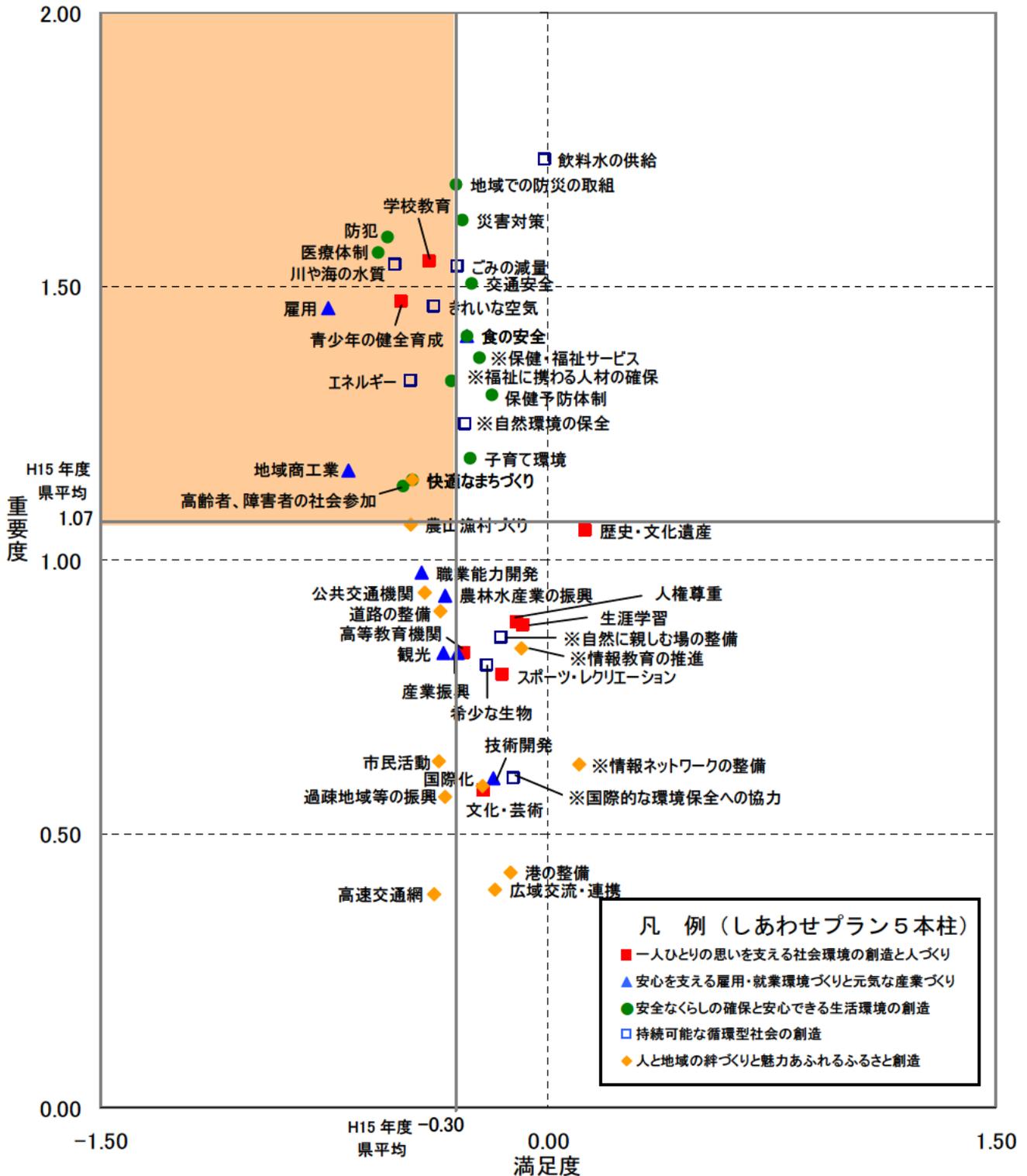
属性別にみると、「雇用」は年齢層別、圏域別にみても重要度はほとんど変わらないが、不満度は20歳代～50歳代で高く、県南部ほど高い。「防犯」については若年層で重要度が高く、若い人ほど防犯の重要性を身近に感じている傾向がみられる。「青少年の健全育成」については教育・保育関係の職業で重要度が高く、40歳代以下で不満度が高い。「川や海の水質」は若い年齢層ほど、また、四日市、鈴鹿・亀山、津・久居地域の県北部で不満度が高くなっている。(集計資料p7～94)

しあわせプランの五つの柱別でみると、「安全なくらしの確保と安心できる生活環境の創造」に関する項目が重要度の平均値以上の位置に多くあげられており、県民の安全・安心に対する関心が高いことがうかがえ、その中でも不満度の高い「防犯」「交通安全」「地域での防災の取組」に対するニーズが高いことがわかる。また、「持続可能な循環型社会の創造」に関する項目として「川や海の水質」「地球温暖化防止」等があげられており、環境問題への関心も高まっている。「一人ひとりの思いを支える社会環境の創造と人づくり」に関する施策では、「青少年の健全育成」等の次世代を育む施策のニーズが高いことがうかがえる。「安心を支える雇用・就業環境づくりと元気な産業づくり」に関する施策では、「雇用」に対するニーズが高くなっている。

「飲料水の供給」「きれいな空気」「食の安全」「人権尊重」「保健予防体制」等については、重要度、満足度ともに平均値以上であるBゾーンに位置しており、今後も着実に取組を推進していくことが期待される施策であると考えられる。

(2) 平成 15 年度との比較

図 重要度と満足度の関係（平成 15 年度）



- 注 1) 「※保健福祉サービス」「※福祉に関わる人材の確保」については、平成 15 年度はそれぞれ独立の項目であったが、平成 16 年度は統合し「19. 福祉サービス」という新項目になっている。
- 注 2) 「※自然に親しむ場の整備」「※自然環境の保全」については、平成 10 年度～平成 15 年度までそれぞれ独立の項目であったが、平成 16 年度は統合し「20. 自然環境との共生」という新項目になっている。
- 注 3) 「※情報ネットワークの整備」「※情報教育」については、平成 10 年度～平成 15 年度までそれぞれ独立の項目であったが、平成 16 年度は統合し「35. 情報ネットワーク」という新項目になっている。
- 注 4) 「※国際的な環境保全への協力」については、平成 16 年度では廃止している。

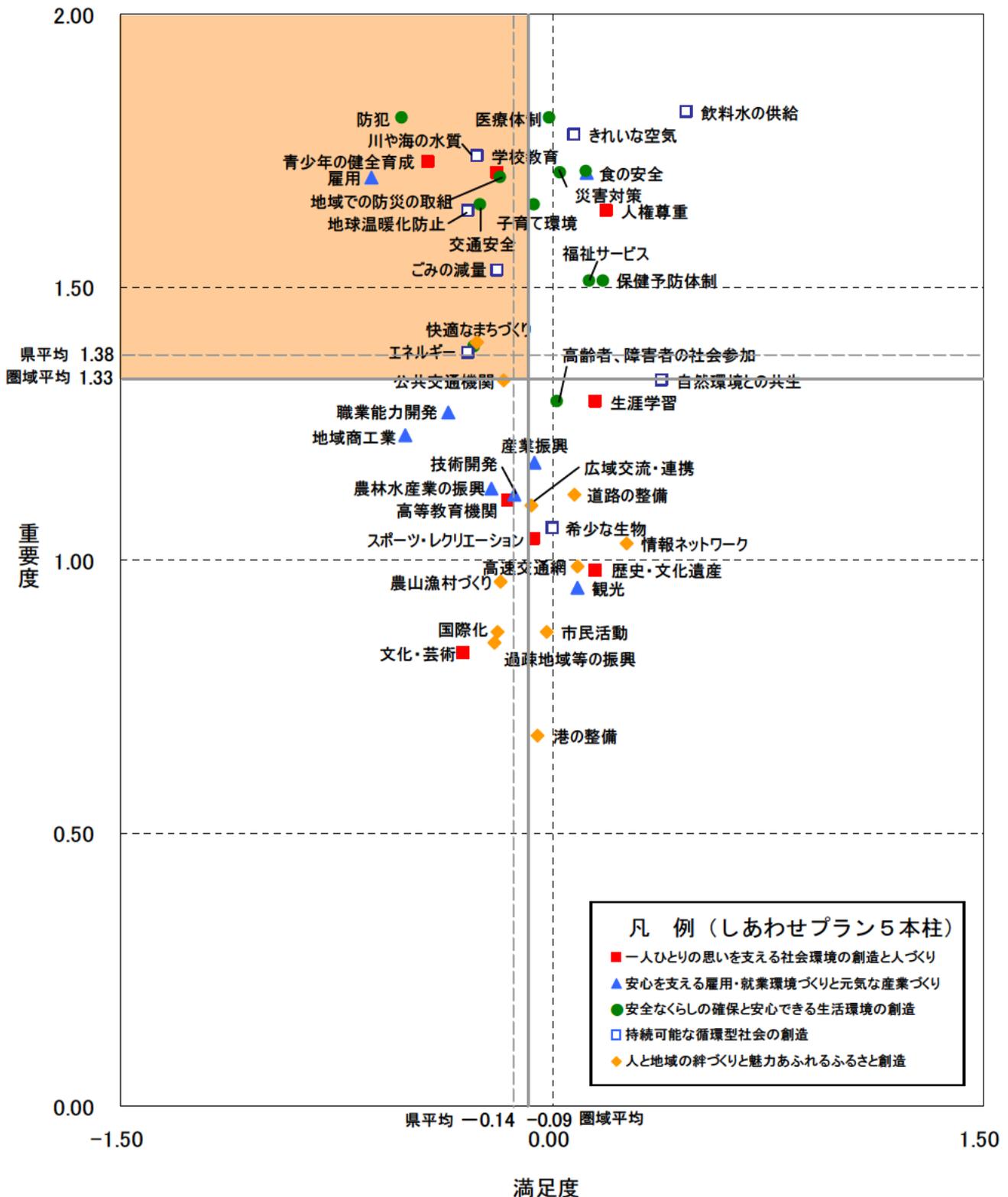
平成 15 年度と平成 16 年度との重要度、満足度の関係を比較すると、平成 15 年度は縦長の分布となっており、重要度に大きな差がみられる。これは、アンケート調査の項目内容を具体的に示したことで設問の意図がわかりやすくなったことが要因の一つに考えられる。しあわせプランの五つの柱別でも「安全なくらしの確保と安心できる生活環境の創造」の項目が、平成 15 年度では縦に長く分布していたのに対して、平成 16 年度は重要度が高くなり、上方に集中している。また、満足度も若干高くなっており、前回からの動向としては全体的に右上方に移行している。これは平均値のラインをみても明らかで、平成 15 年度と比較して重要度平均値は 1.07 が 1.38 に、満足度平均値は -0.30 が -0.14 にとも高くなっている。

(3) 重要度、満足度の地域特性

9圏域について、それぞれ重要度、満足度の関係を図にプロットして地域的な特性をつかむ。県全体の場合と比較するため、各圏域の平均値ラインを実線「——」で、県全体の場合の平均値ラインを点線「-----」で示す。

①桑名・員弁地域

図 重要度と満足度の関係図（桑名・員弁）



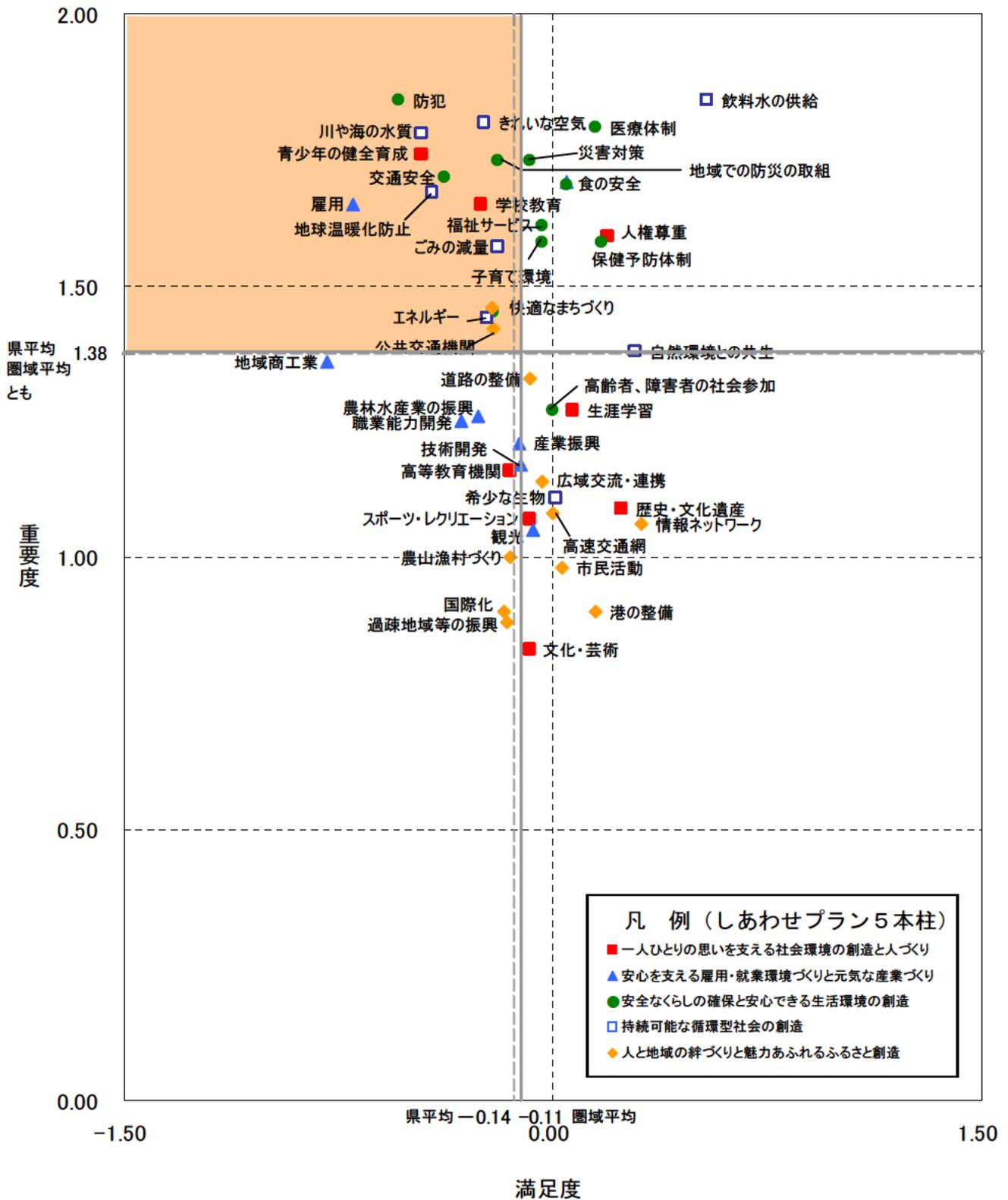
県全体の場合と比較して、重要度の平均が低くなり、満足度の平均が高くなっている。

また、県全体と比べて満足度が高い項目としては、「地域商工業」「高速交通網」「道路の整備」「公共交通機関」等があげられる。

Aゾーンに入る項目としては、「雇用」「防犯」「青少年の健全育成」「川や海の水質」「地球温暖化防止」等があげられる。

②四日市地域

図 重要度と満足度の関係図（四日市）



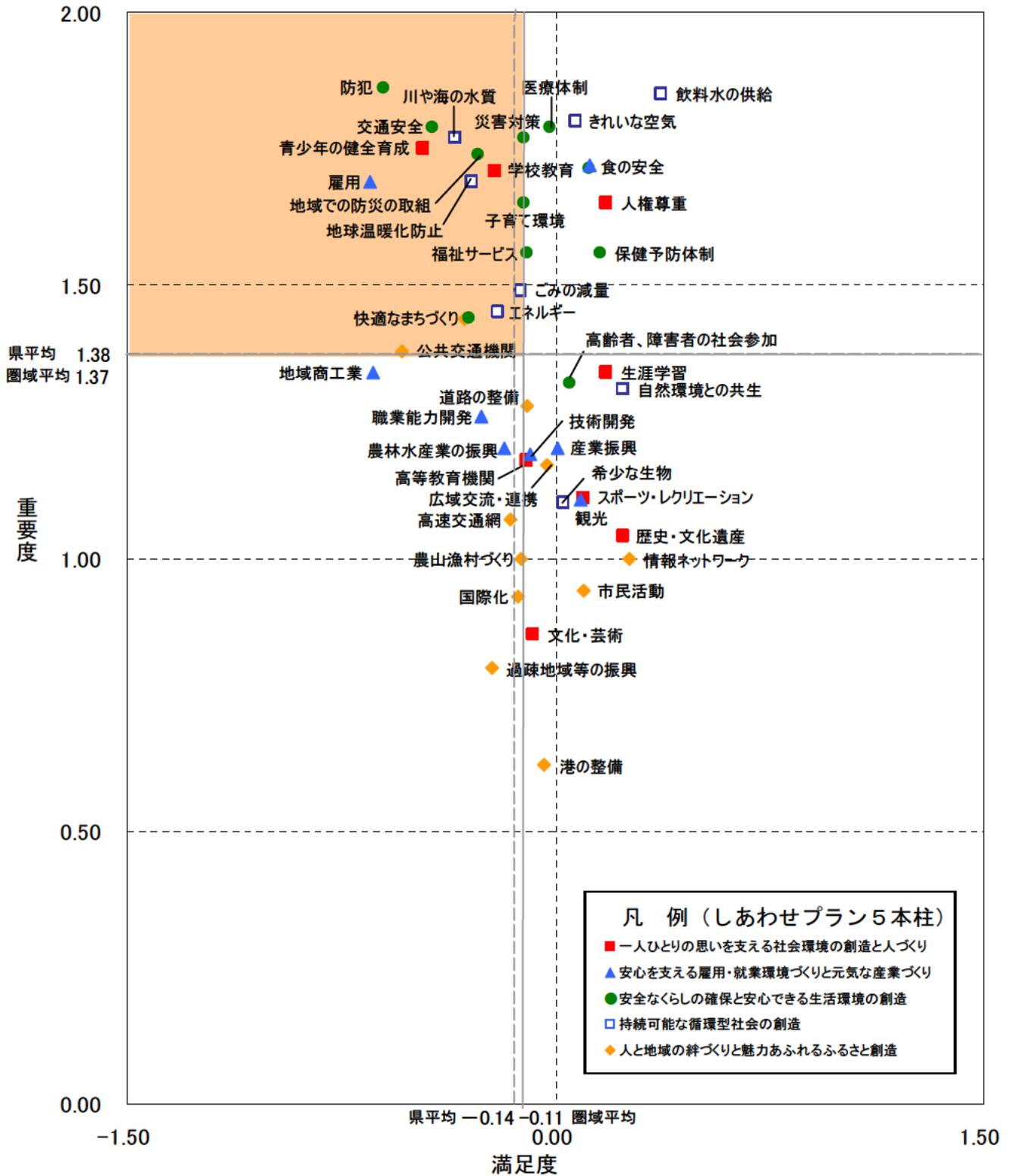
県全体の場合と比較して、重要度の平均は相違がみられないが、満足度の平均はやや高くなっている。

また、県全体と比べて満足度が高い項目としては、「港の整備」があげられる。

Aゾーンに入る項目としては、「雇用」「防犯」「川や海の水質」「青少年の健全育成」「交通安全」「地球温暖化防止」等があげられ、特に県全体ではAゾーンに入っていないが、四日市地域ではAゾーンに入っている項目に「きれいな空気」「公共交通機関」があげられる。

③鈴鹿・亀山地域

図 重要度と満足度の関係図（鈴鹿・亀山）



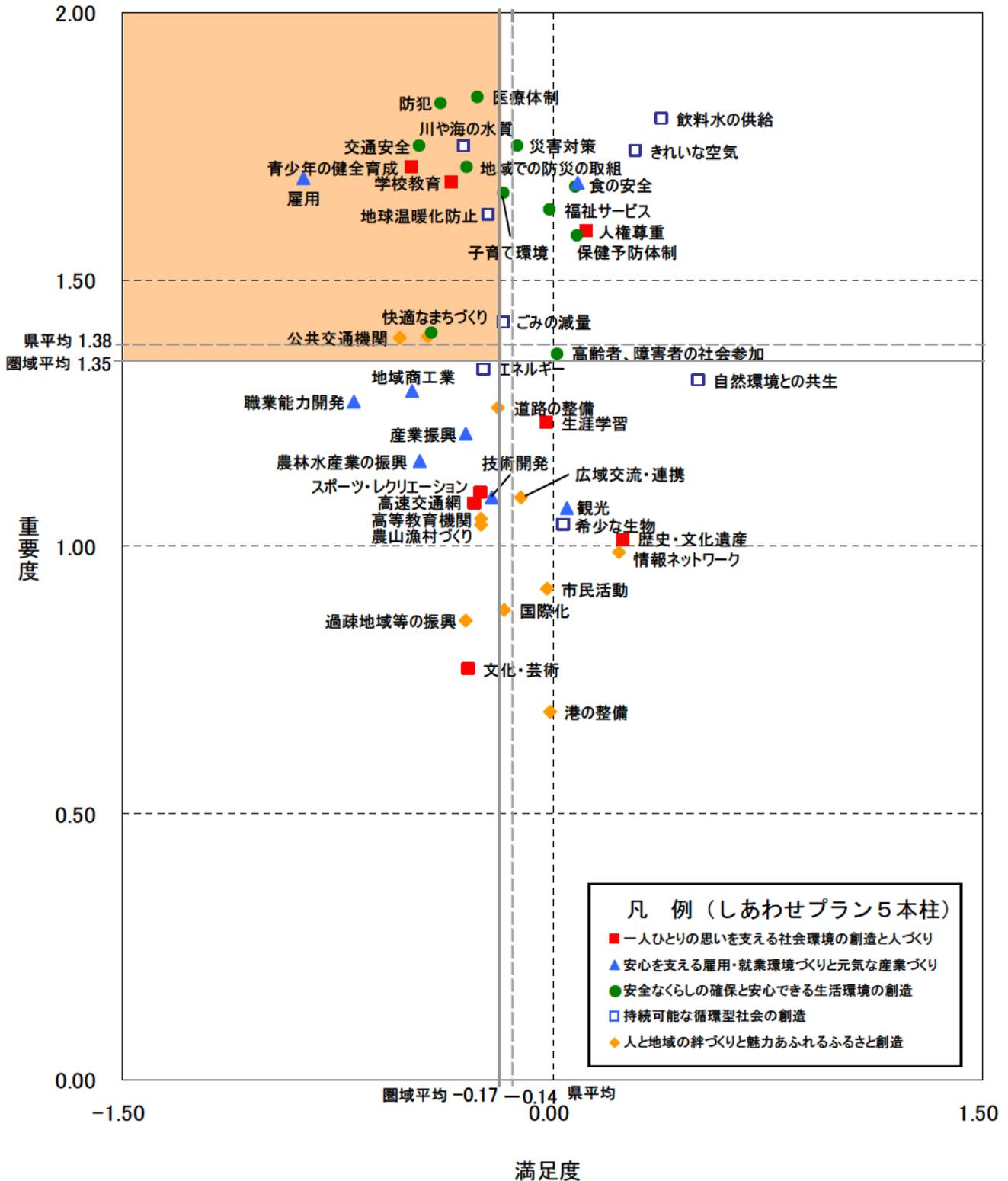
県全体の場合と比較して、重要度の平均はあまり相違がみられないが、満足度の平均はやや高くなっている。

また、県全体と比べて満足度が高い項目としては、「産業振興」があげられる。

Aゾーンに入る項目としては、「防犯」「雇用」「交通安全」「青少年の健全育成」「川や海の水質」「地域での防災の取組」「地球温暖化防止」等があげられ、特に県全体ではAゾーンに入っていないが、鈴鹿・亀山地域ではAゾーンに入っている項目としては、「災害対策」「子育て環境」「公共交通機関」があげられる。

④伊賀地域

図 重要度と満足度の関係図（伊賀）



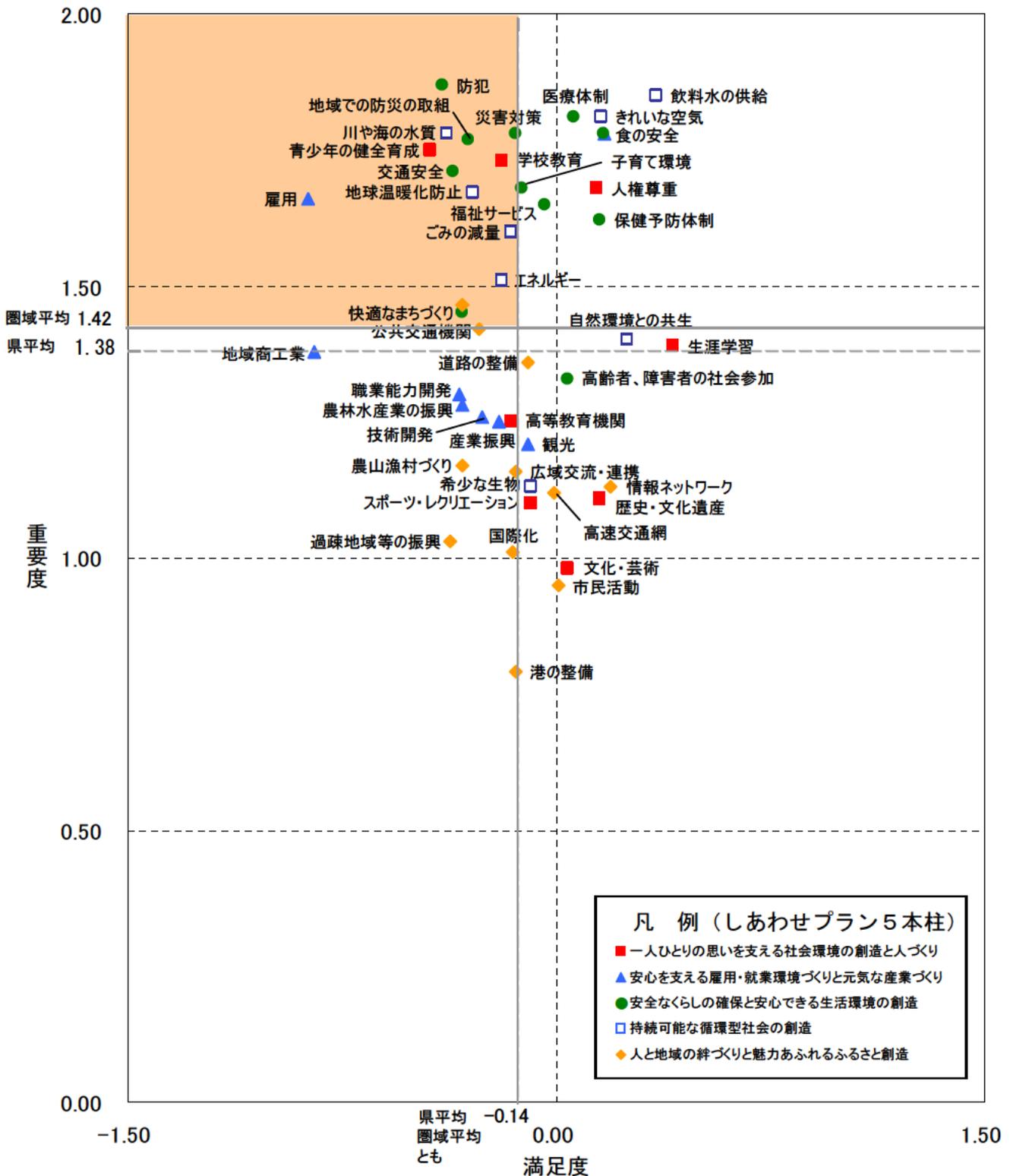
県全体の場合と比較して、重要度、満足度の平均ともにやや低くなっている。

Aゾーンに入る項目としては、「雇用」「防犯」「交通安全」「青少年の健全育成」「学校教育」「川や海の水質」「地域での防災の取組」等があげられ、特に県全体ではAゾーンに入っていないが、伊賀地域ではAゾーンに入っている項目としては、「子育て環境」「医療体制」「公共交通機関」があげられる。

一方、「エネルギー」は県全体ではAゾーンに入っているが、伊賀地域ではAゾーンに入っていない。

⑤津・久居地域

図 重要度と満足度の関係図（津・久居）

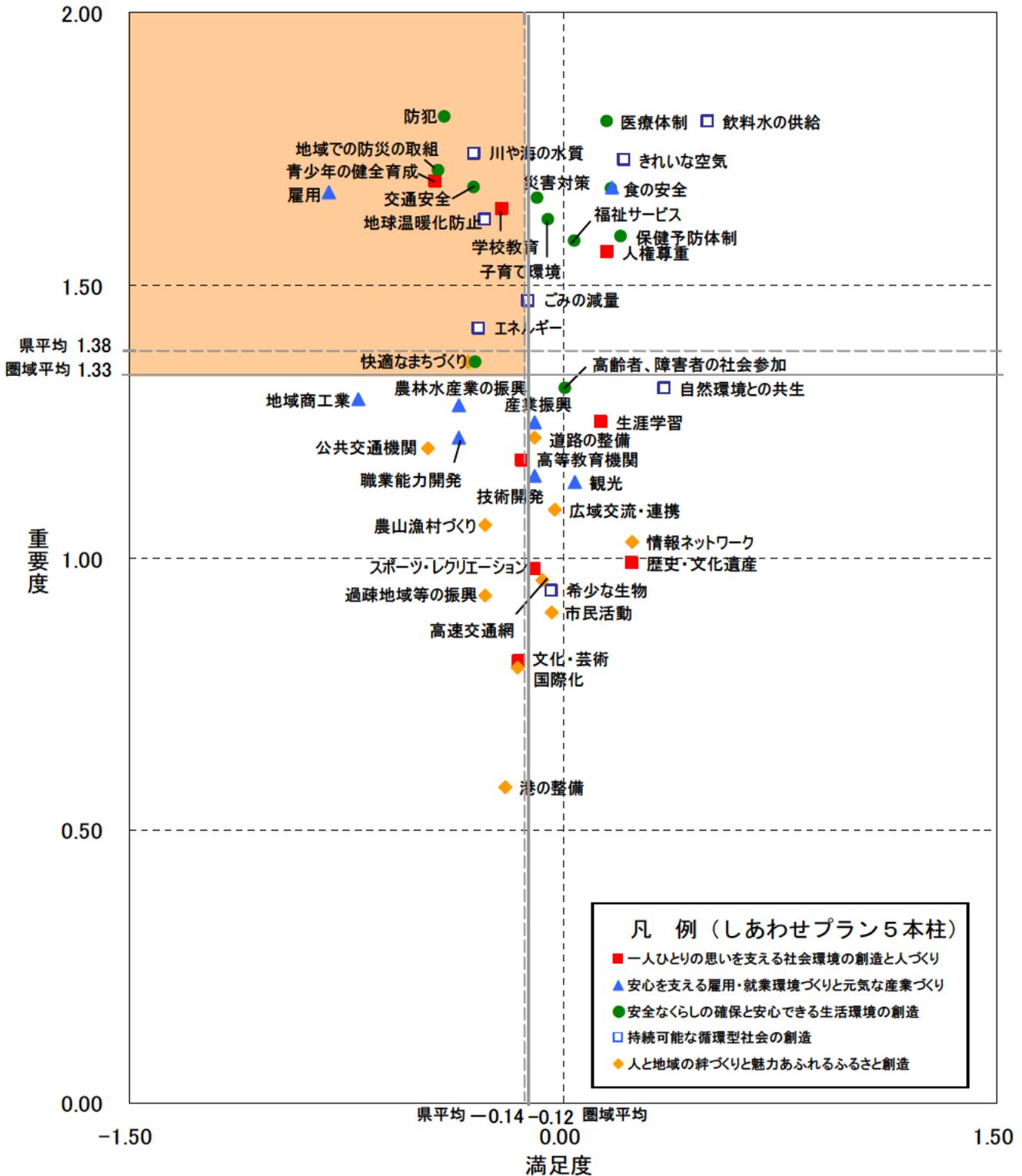


県全体の場合と比較して、重要度の平均は高くなっているが、満足度の平均は相違がみられない。また、県全体と比べて満足度が高い項目としては「生涯学習」があげられる。

Aゾーンに入る項目としては、「雇用」「防犯」「青少年の健全育成」「川や海の水質」「地域での防災の取組」「交通安全」「地球温暖化防止」等があげられ、特に県全体ではAゾーンに入っていないが、津・久居地域ではAゾーンに入っている項目としては、「災害対策」があげられる。

⑥松阪・紀勢地域

図 重要度と満足度の関係図（松阪・紀勢）

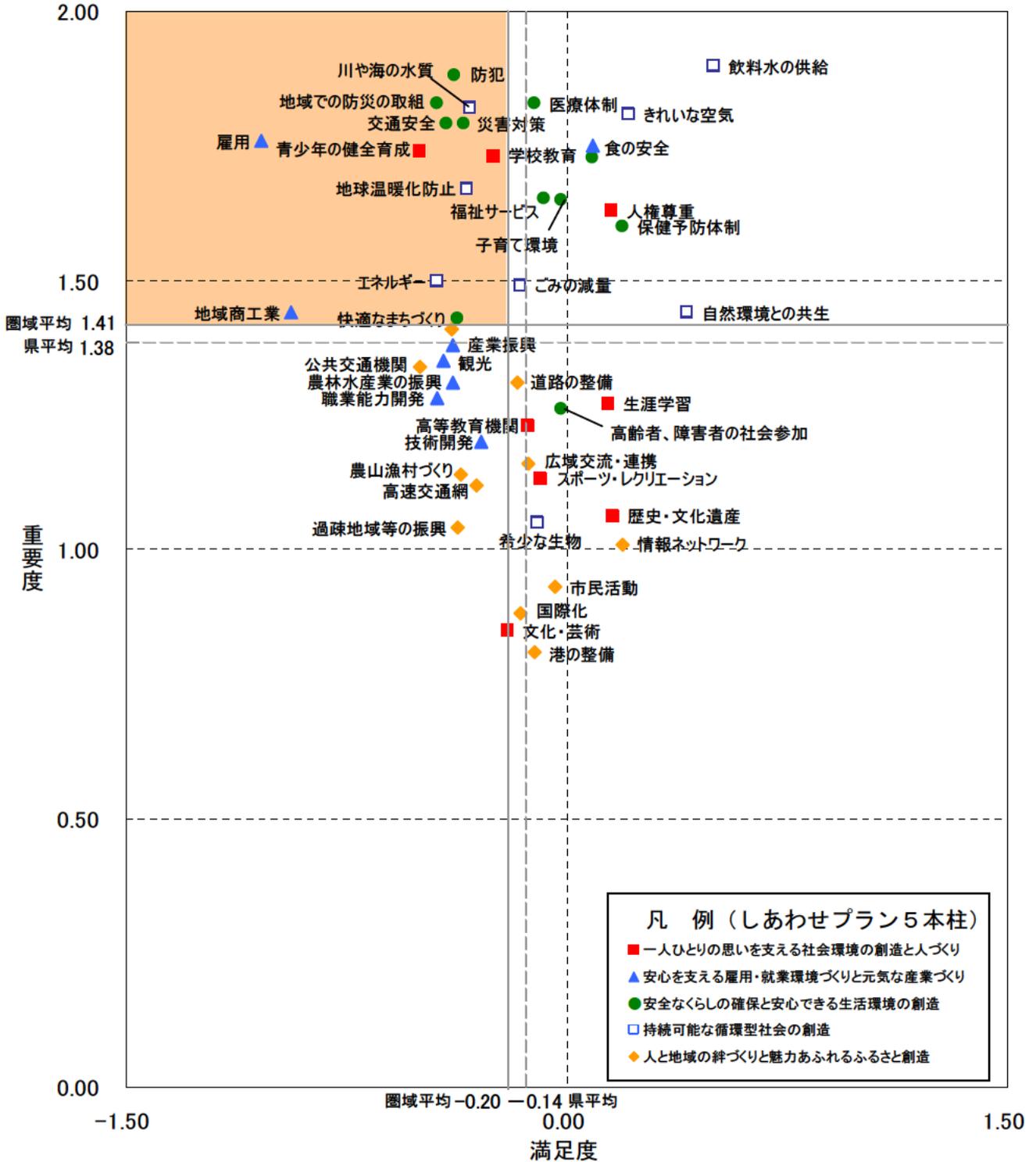


県全体の場合と比較して、重要度の平均は低くなっているが、満足度の平均はあまり相違がみられない。

県全体の場合とあまり分布に変化がみられず、Aゾーンに入る項目としては、「雇用」「防犯」「地域での防災の取組」「青少年の健全育成」「川や海の水質」「交通安全」「地球温暖化防止」等があげられる。

⑦伊勢志摩地域

図 重要度と満足度の関係図（伊勢志摩）



県全体の場合と比較して、重要度の平均はやや高くなり、満足度の平均はやや低くなっている。

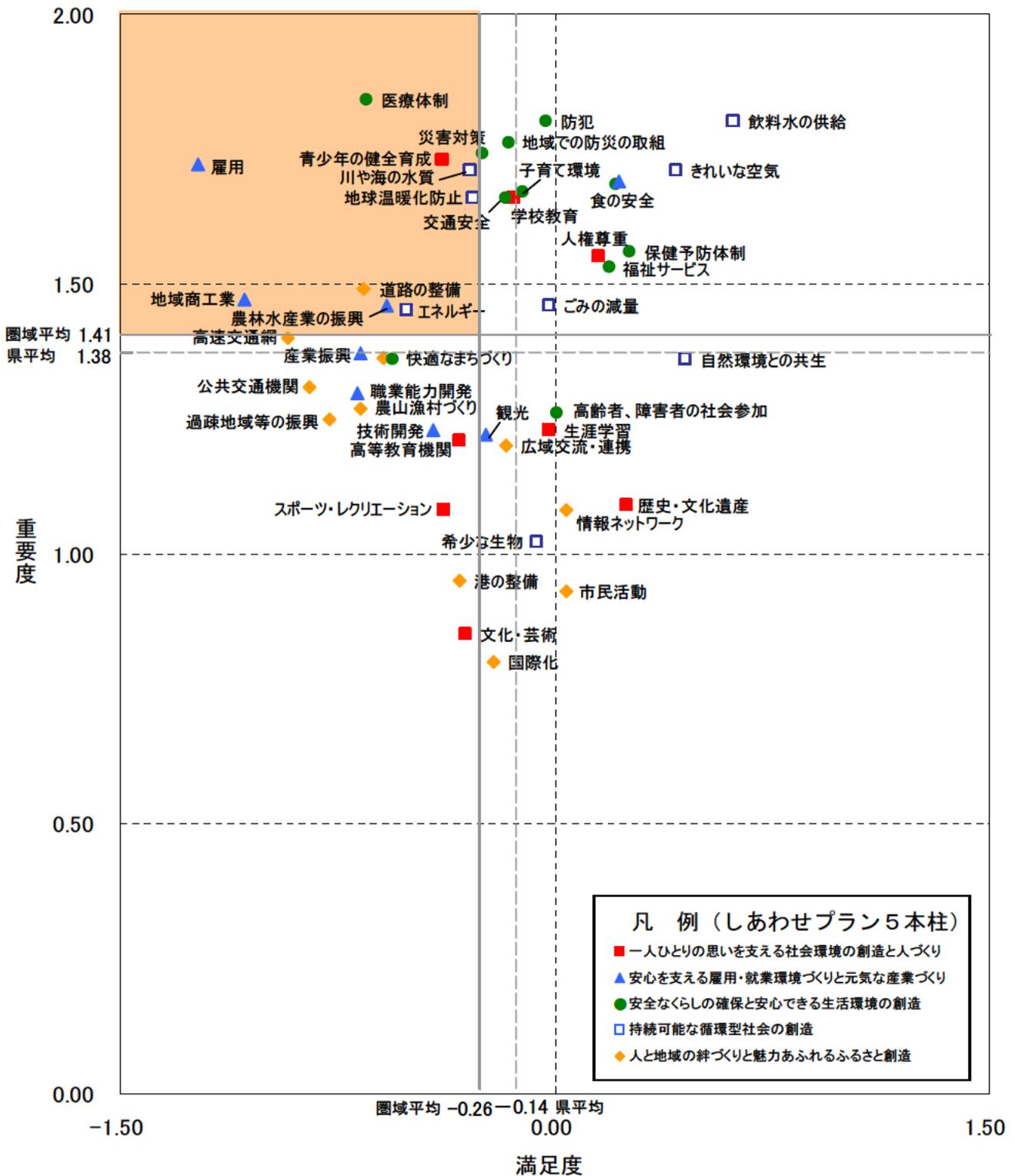
また、県全体と比べて重要度が高く、満足度が低い項目としては「観光」があげられており、県全体と比べて満足度が低い項目としては「雇用」があげられている。

Aゾーンに入る項目としては、「雇用」「青少年の健全育成」「防犯」「地域での防災の取組」「川や海の水質」「交通安全」「災害対策」「地球温暖化防止」等があげられ、特に県全体ではAゾーンに入っていないが、伊勢志摩地域ではAゾーンに入っている項目としては、「災害対策」「地域商工業」があげられる。

一方、「ごみの減量」は、県全体ではAゾーンに入っているが、伊勢志摩地域ではAゾーンに入っていない。

⑧尾鷲地域

図 重要度と満足度の関係図（尾鷲）



県全体の場合と比較して、重要度の平均はやや高く、満足度の平均は低くなっている。また、全体的に満足度の拡がりが大きく分布しており、項目によって満足度の差が大きい。

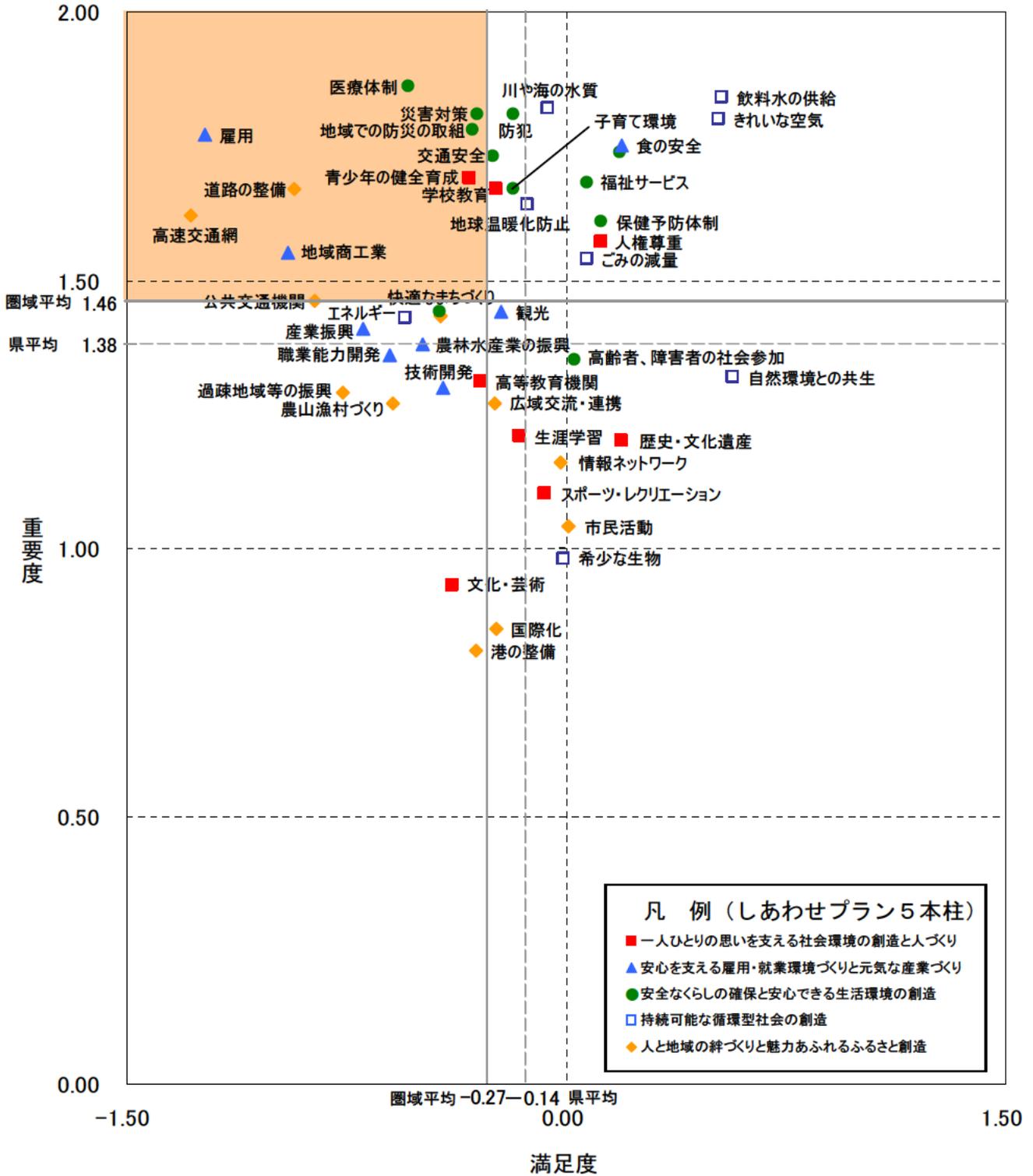
県全体と比べて重要度が高くかつ満足度が低い項目としては、「高速交通網」「農山漁村づくり」「過疎地域等の振興」等があげられる。

Aゾーンに入る項目としては、「雇用」「医療体制」「青少年の健全育成」「道路の整備」等があげられており、なかでも県全体ではAゾーンに入っていないが、尾鷲地域ではAゾーンに入っている項目としては、「医療体制」「農林水産業の振興」「地域商工業」「道路の整備」等があげられる。

一方、「学校教育」「地域での防災の取組」「交通安全」「防犯」「ごみの減量」「快適なまちづくり」等は、県全体ではAゾーンに入っているが、尾鷲地域ではAゾーンに入っていない。

⑨熊野地域

図 重要度と満足度の関係図（熊野）



県全体の場合と比較して、重要度の平均が高く、満足度の平均が低くなっている。尾鷲地域と同様に、満足度の分布が幅広く、項目によって満足度の差が大きい。

また、県全体と比べて満足度が低い項目としては、「生涯学習」「技術開発」「情報ネットワーク」「農山漁村づくり」「過疎地域等の振興」等があげられる。

Aゾーンに入る項目としては、「雇用」「高速交通網」「道路の整備」「医療体制」等があげられており、なかでも県全体ではAゾーンに入っていないが、熊野地域ではAゾーンに入っている項目としては、「災害対策」「医療体制」「地域商工業」「高速交通網」「道路の整備」「公共交通機関」等があげられる。

一方、「学校教育」「交通安全」「防犯」「ごみの減量」「川や海の水質」「地球温暖化防止」「快適なまちづくり」「エネルギー」等は、県全体ではAゾーンに入っているが、熊野地域ではAゾーンに入っていない。

< 地域特性の総括 >

県南部の尾鷲、熊野地域は他の地域と比べて満足度の分布が分散しているが、主に重要度が高く不満度が高い(=ニーズが高い)位置に広がっていることが特徴といえ、そのなかでも「医療体制」「道路の整備」「地域商工業」等は地域においてもAゾーンの項目としてあげられる。一方、他地域ではAゾーンの項目としてあげられている「防犯」や「交通安全」がAゾーンから外れ、「ごみの減量」「きれいな空気」「自然環境との共生」等の環境に関する項目については他の地域と比べて満足度が高くなっている。

「医療体制」は、全域をとおして重要度の高い項目であるが、伊賀、尾鷲、熊野地域では不満度が高い。

また、「保健予防体制」「子育て環境」「青少年の健全育成」「食の安全」等については、重要度、満足度ともに圏域による意識の差はほとんどみられない。これらの項目はいずれも重要度は高く、どの地域でも今後の県行政の取組に期待が高いといえる。

4 . 各項目の地域特性

前章では、圏域ごとにその特徴を把握したが、本章では、項目の視点から圏域の特性を明らかにする。44項目について9圏域の標準偏差を算出して、どれくらいのばらつきがみられるかを分析することで、項目の地域特性を明らかにする。

(1)重要度における各項目の地域特性

「高速交通網」「過疎地域等の振興」「道路の整備」「観光」「港の整備」等の標準偏差が高く、ばらつきがみられる。(図参照)

また、上位5項目について各圏域の重要度の内訳を下表に示す。「高速交通網」「道路の整備」の重要度は、尾鷲地域や熊野地域で高いのに対して桑名・員弁地域や松阪・紀勢地域で低く、圏域による相違がみられる。また、「過疎地域等の振興」の重要度も尾鷲地域、熊野地域で高くなっている。

一方、標準偏差が低くばらつきの少ない項目は「青少年の健全育成」「地球温暖化防止」「医療体制」「防犯」「子育て環境」等で、これらの項目については、どの地域の県民も同じように重要と感じているといえる。

図 重要度の標準偏差(圏域)

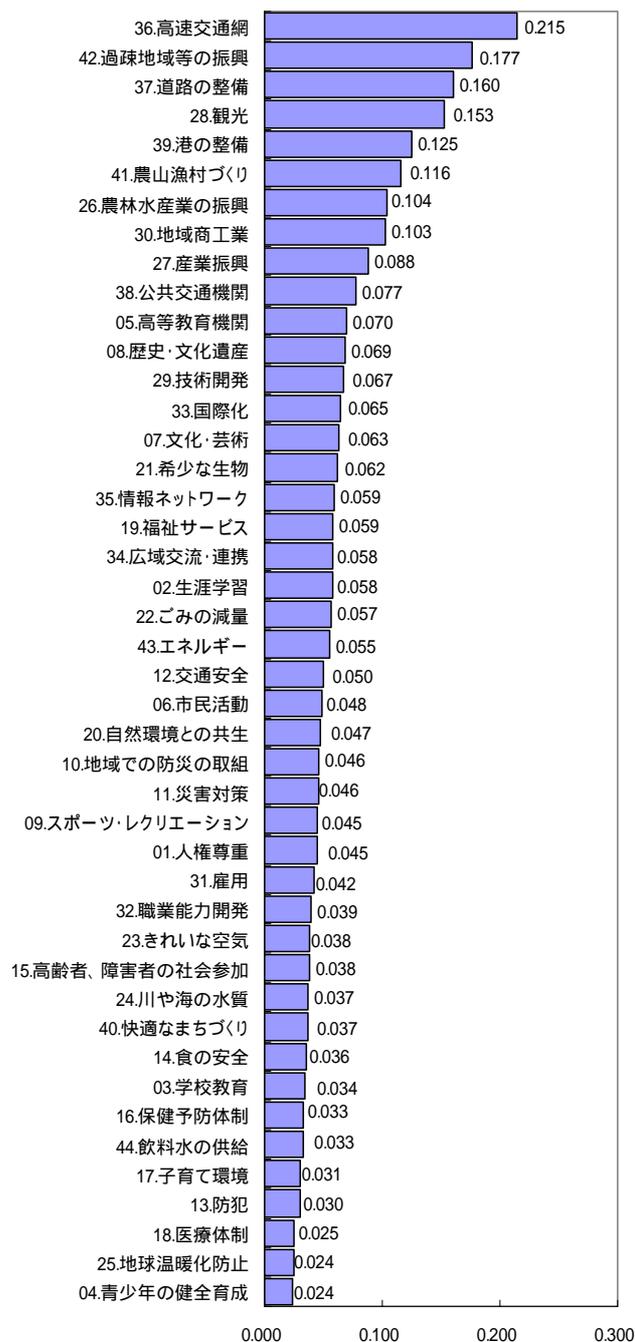


表 各圏域の重要度と標準偏差

順位	項目	重要度									標準偏差	
		全体	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲		熊野
1位	36.高速交通網	1.08	0.99	1.08	1.07	1.04	1.12	0.96	1.12	1.40	1.62	0.215
2位	42.過疎地域等の振興	0.94	0.85	0.88	0.80	0.86	1.03	0.93	1.04	1.25	1.29	0.177
3位	37.道路の整備	1.29	1.12	1.33	1.28	1.26	1.36	1.22	1.31	1.49	1.67	0.160
4位	28.観光	1.14	0.95	1.05	1.11	1.07	1.21	1.14	1.35	1.22	1.44	0.153
5位	39.港の整備	0.75	0.68	0.90	0.62	0.69	0.79	0.58	0.81	0.95	0.81	0.125

(2) 満足度における各項目の地域特性

「高速交通網」の標準偏差が圧倒的に高く、それに次ぐ「道路の整備」も高い。以下、「医療体制」「産業振興」「公共交通機関」等と続いており、これらの項目のばらつきが大きくなっている。(図参照)また、上位5項目について各圏域の満足度の内訳を下表に示す。上位5項目すべての満足度は、尾鷲地域や熊野地域が他地域と比べて低く、中でも「高速交通網」「道路の整備」の格差は顕著である。

一方、標準偏差が低くばらつきの少ない項目は「高齢者、障害者の社会参加」「人権尊重」「国際化」「歴史・文化遺産」「市民活動」等であり、これらの項目の満足度は、地域でそれほど差がみられないといえる。



表 各圏域の満足度と標準偏差

順位	項目	満足度										標準偏差
		全体	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野	
1位	36.高速交通網	-0.14	0.09	0.00	-0.16	-0.25	-0.01	-0.07	-0.31	-0.92	-1.28	0.467
2位	37.道路の整備	-0.13	0.08	-0.08	-0.10	-0.19	-0.10	-0.10	-0.17	-0.66	-0.93	0.325
3位	18.医療体制	-0.01	-0.01	0.15	-0.02	-0.26	0.06	0.15	-0.11	-0.65	-0.54	0.290
4位	27.産業振興	-0.19	-0.06	-0.12	0.01	-0.30	-0.20	-0.10	-0.39	-0.67	-0.69	0.257
5位	38.公共交通機関	-0.39	-0.17	-0.21	-0.54	-0.53	-0.27	-0.47	-0.50	-0.85	-0.86	0.250

5 . 県行政の取組に対する認知意識について

(1) 認知意識の推移

平成 16 年度における認知意識（「取組の内容を知っている」+「取り組んでいることは知っている」）の上位 5 項目は、「ごみの減量」「生涯学習」「人権尊重」「福祉サービス」「地域での防災の取組」の順となっている。これら上位 5 項目に「交通安全」「道路の整備」「災害対策」「高速交通網」「観光」を加えた上位 10 項目の認知意識は、全て 50%を超えている。

前回と比較すると、全体的に前回より認知意識が高くなり、認知意識が 5 割以上を占める項目は前回の 2 倍に増加している。これは、設問文の表現が分かりやすくなったことにより、身近な取組として認識した結果が要因の一つと考えられる。「ごみの減量」は平成 15 年度からほとんど変化がなく、2 位と約 10 ポイントの差をつけて目立って高くなっている。また、「人権尊重」「生涯学習」「地域での防災の取組」「交通安全」等、上位項目のほとんどは前回と変わっていない。

表 認知意識

単位(%)

順位	項目	平成16年度 認知意識	項目	平成15年度 認知意識
1位	22 ごみの減量	68.2	22.ごみの減量	68.6
2位	02 生涯学習	58.0	01.人権尊重	59.9
3位	01 人権尊重	57.5	10.地域での防災の取組	58.4
4位	19 福祉サービス	56.3	12.交通安全	57.6
5位	10 地域での防災の取組	55.0	保健・福祉サービス	56.1
6位	12 交通安全	53.8	02.生涯学習	50.1
7位	37 道路の整備	53.5	03.学校教育	49.7
8位	11 災害対策	51.7	情報ネットワークの整備	49.1
9位	36 高速交通網	50.7	37.道路の整備	48.9
10位	28 観光	50.4	11.災害対策	47.8
11位	08 歴史・文化遺産	49.4	08.歴史・文化遺産	45.3
12位	09 スポーツ・レクリエーション	49.0	09.スポーツ・レクリエーション	44.8
13位	06 市民活動	47.8	24.川や海の水質	42.4
14位	44 飲料水の供給	47.5	23.きれいな空気	41.3
15位	03 学校教育	45.5	40.快適なまちづくり	41.2
16位	35 情報ネットワーク	45.5	福祉に携わる人材の確保	40.6
17位	15 高齢者、障害者の社会参加	45.3	13.防犯	40.5
18位	24 川や海の水質	43.7	04.青少年の健全育成	40.0
19位	14 食の安全	43.0	44.飲料水の供給	39.0
20位	18 医療体制	43.0	17.子育て環境	37.9
21位	23 きれいな空気	42.3	15.高齢者、障害者の社会参加	37.0
22位	40 快適なまちづくり	42.1	情報教育の推進	36.7
23位	04 青少年の健全育成	41.4	16.保健予防体制	36.2
24位	13 防犯	41.0	43.エネルギー	35.2
25位	20 自然環境との共生	40.5	自然環境の保全	34.5
26位	25 地球温暖化防止	40.5	28.観光	34.3
27位	07 文化・芸術	39.0	14.食の安全	33.3
28位	17 子育て環境	38.2	07.文化・芸術	32.3
29位	16 保健予防体制	38.0	30.地域商工業	30.7
30位	43 エネルギー	35.2	36.高速交通網	30.0
31位	27 産業振興	35.0	38.公共交通機関	29.6
32位	38 公共交通機関	31.8	自然に親しむ場の整備	29.2
33位	30 地域商工業	29.1	31.雇用	28.2
34位	31 雇用	28.1	18.医療体制	27.3
35位	05 高等教育機関	25.1	27.産業振興	27.3
36位	21 希少な生物	23.5	41.農山漁村づくり	27.1
37位	33 国際化	22.7	06.市民活動	24.7
38位	32 職業能力開発	22.6	05.高等教育機関	24.1
39位	26 農林水産業の振興	22.4	26.農林水産業の振興	21.9
40位	41 農山漁村づくり	21.9	32.職業能力開発	21.1
41位	34 広域交流・連携	21.2	21.希少な生物	20.8
42位	29 技術開発	20.9	39.港の整備	19.9
43位	42 過疎地域等の振興	20.3	33.国際化	16.7
44位	39 港の整備	19.3	42.過疎地域等の振興	15.6
45位			国際的な環境保全への協力	13.4
46位			29.技術開発	12.3
47位			34.広域交流・連携	11.3

注1)「保健福祉サービス」「福祉に関わる人材の確保」については、平成15年度はそれぞれ独立の項目であったが、平成16年度は統合し「19.福祉サービス」という新項目になっている。

注2)「自然に親しむ場の整備」「自然環境の保全」については、平成10年度～平成15年度までそれぞれ独立の項目であったが、平成16年度は統合し「20.自然環境との共生」という新項目になっている。

注3)「情報ネットワークの整備」「情報教育」については、平成10年度～平成15年度までそれぞれ独立の項目であったが、平成16年度は統合し「35.情報ネットワーク」という新項目になっている。

注4)「国際的な環境保全への協力」については、平成16年度では廃止している。

(2) 認知している人のみの重要度、満足度の結果

県行政の取組を認知している人のみの重要度、満足度の結果は以下のようになった。

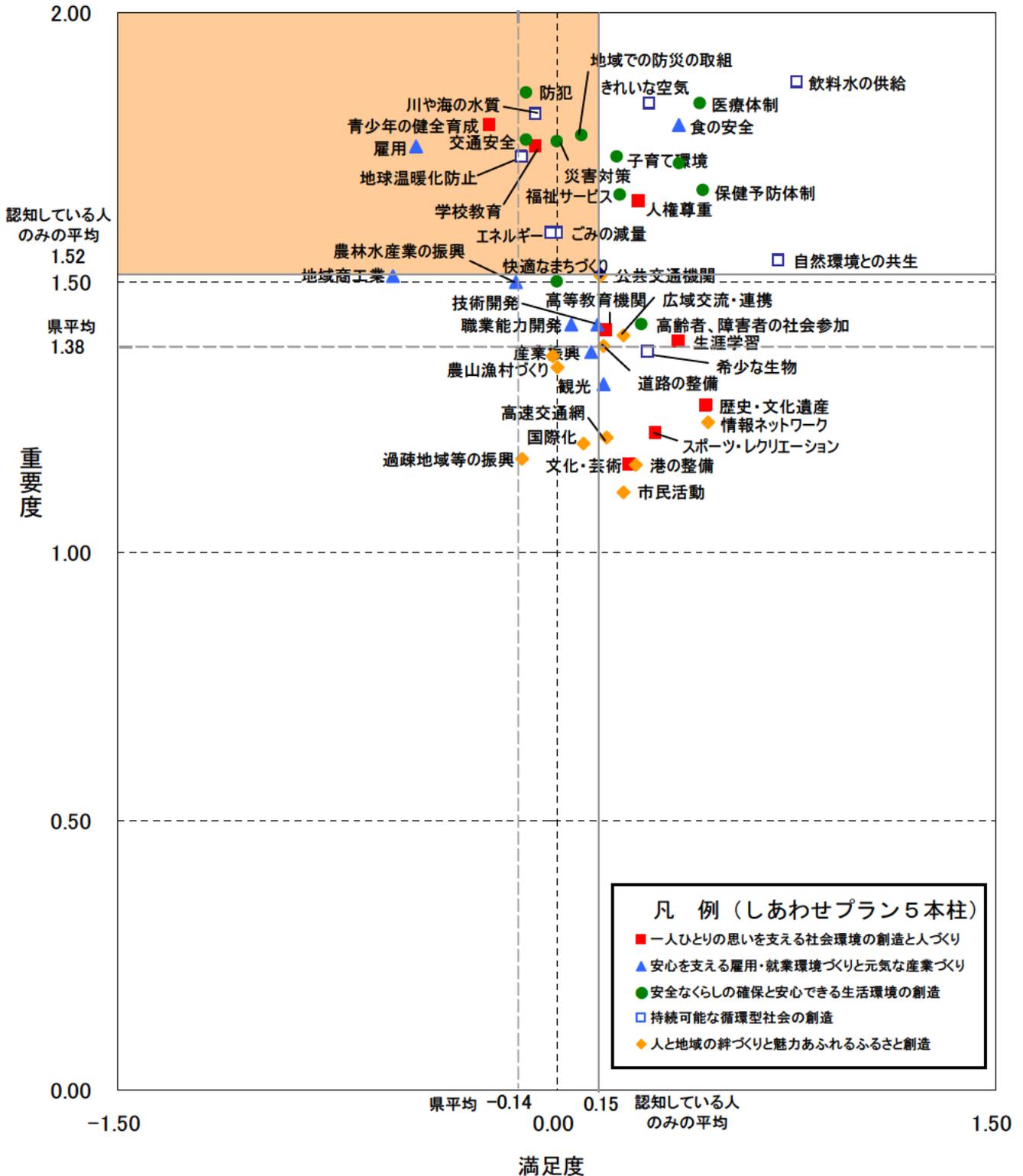
全ての項目について、回答者全員を対象とした場合より重要度、満足度が高くなっている。また、項目の順位については回答者全員の場合とほとんど変わらない。

表 認知している人のみの重要度、満足度

順位	項目	重要度	項目	満足度
1位	44.飲料水の供給	1.87	44.飲料水の供給	0.82
2位	13.防犯	1.85	20.自然環境との共生	0.76
3位	18.医療体制	1.83	35.情報ネットワーク	0.52
4位	23.きれいな空気	1.83	08.歴史・文化遺産	0.51
5位	24.川や海の水質	1.81	16.保健予防体制	0.50
6位	04.青少年の健全育成	1.79	18.医療体制	0.49
7位	14.食の安全	1.79	02.生涯学習	0.42
8位	11.災害対策	1.77	14.食の安全	0.42
9位	10.地域での防災の取組	1.76	09.スポーツ・レクリエーション	0.34
10位	12.交通安全	1.76	23.きれいな空気	0.32
11位	03.学校教育	1.75	21.希少な生物	0.31
12位	31.雇用	1.75	15.高齢者、障害者の社会参加	0.29
13位	17.子育て環境	1.73	01.人権尊重	0.28
14位	25.地球温暖化防止	1.73	39.港の整備	0.27
15位	16.保健予防体制	1.67	07.文化・芸術	0.25
16位	19.福祉サービス	1.66	06.市民活動	0.23
17位	01.人権尊重	1.65	34.広域交流・連携	0.23
18位	22.ごみの減量	1.59	19.福祉サービス	0.22
19位	43.エネルギー	1.59	17.子育て環境	0.21
20位	20.自然環境との共生	1.54	05.高等教育機関	0.17
21位	30.地域商工業	1.51	36.高速交通網	0.17
22位	38.公共交通機関	1.51	28.観光	0.16
23位	26.農林水産業の振興	1.50	37.道路の整備	0.16
24位	40.快適なまちづくり	1.50	38.公共交通機関	0.15
25位	15.高齢者、障害者の社会参加	1.42	29.技術開発	0.14
26位	29.技術開発	1.42	27.産業振興	0.12
27位	32.職業能力開発	1.42	33.国際化	0.09
28位	05.高等教育機関	1.41	11.災害対策	0.08
29位	34.広域交流・連携	1.40	32.職業能力開発	0.05
30位	02.生涯学習	1.39	10.地域での防災の取組	0.00
31位	37.道路の整備	1.38	22.ごみの減量	0.00
32位	21.希少な生物	1.37	40.快適なまちづくり	0.00
33位	27.産業振興	1.37	41.農山漁村づくり	0.00
34位	41.農山漁村づくり	1.34	43.エネルギー	-0.02
35位	28.観光	1.31	03.学校教育	-0.07
36位	08.歴史・文化遺産	1.27	24.川や海の水質	-0.07
37位	35.情報ネットワーク	1.24	12.交通安全	-0.10
38位	09.スポーツ・レクリエーション	1.22	13.防犯	-0.10
39位	36.高速交通網	1.21	25.地球温暖化防止	-0.12
40位	33.国際化	1.20	42.過疎地域等の振興	-0.12
41位	42.過疎地域等の振興	1.17	26.農林水産業の振興	-0.14
42位	07.文化・芸術	1.16	04.青少年の健全育成	-0.23
43位	39.港の整備	1.16	31.雇用	-0.48
44位	06.市民活動	1.11	30.地域商工業	-0.56
	重要度平均	1.52	満足度平均	0.15

(3) 認知している人のみの重要度、満足度プロット図

図 認知している人のみの重要度と満足度の関係図（平成16年度）



(4) 認知していない人のみの重要度、満足度の結果

県行政の取組を認知していない人(「あまり知らない」+「知らない」)のみの重要度、満足度の結果は以下のようになった。

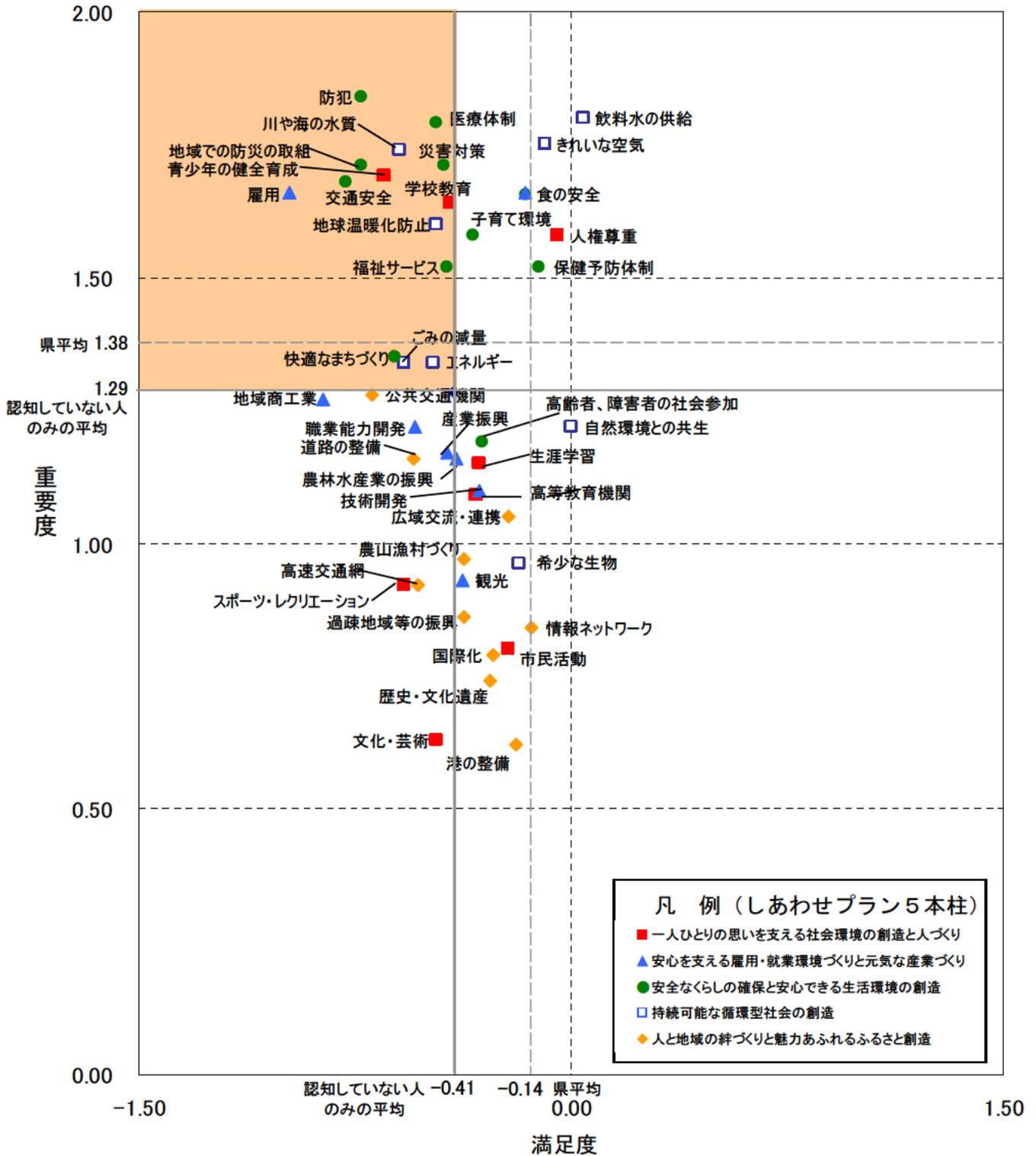
重要度、満足度ともに、認知している人のみの場合と比べて低くなっている。また、項目の順位については認知している人のみの場合とほとんど変わらない。

表 認知していない人のみの重要度、満足度

順位	項目	重要度	項目	満足度
1位	13.防犯	1.84	44.飲料水の供給	0.04
2位	44.飲料水の供給	1.80	20.自然環境との共生	0.00
3位	18.医療体制	1.79	01.人権尊重	-0.05
4位	23.きれいな空気	1.75	23.きれいな空気	-0.09
5位	24.川や海の水質	1.74	16.保健予防体制	-0.11
6位	10.地域での防災の取組	1.71	35.情報ネットワーク	-0.14
7位	11.災害対策	1.71	14.食の安全	-0.16
8位	04.青少年の健全育成	1.69	21.希少な生物	-0.18
9位	12.交通安全	1.68	39.港の整備	-0.19
10位	14.食の安全	1.66	08.歴史・文化遺産	-0.22
11位	31.雇用	1.66	34.広域交流・連携	-0.22
12位	03.学校教育	1.64	33.国際化	-0.27
13位	25.地球温暖化防止	1.60	06.市民活動	-0.28
14位	01.人権尊重	1.58	15.高齢者、障害者の社会参加	-0.31
15位	17.子育て環境	1.58	02.生涯学習	-0.32
16位	16.保健予防体制	1.52	29.技術開発	-0.32
17位	19.福祉サービス	1.52	05.高等教育機関	-0.33
18位	40.快適なまちづくり	1.35	17.子育て環境	-0.34
19位	22.ごみの減量	1.34	41.農山漁村づくり	-0.37
20位	43.エネルギー	1.34	42.過疎地域等の振興	-0.37
21位	38.公共交通機関	1.28	28.観光	-0.38
22位	30.地域商工業	1.27	26.農林水産業の振興	-0.40
23位	20.自然環境との共生	1.22	03.学校教育	-0.42
24位	32.職業能力開発	1.22	19.福祉サービス	-0.43
25位	15.高齢者、障害者の社会参加	1.19	27.産業振興	-0.43
26位	27.産業振興	1.17	11.災害対策	-0.44
27位	26.農林水産業の振興	1.16	07.文化・芸術	-0.47
28位	37.道路の整備	1.16	18.医療体制	-0.47
29位	02.生涯学習	1.15	25.地球温暖化防止	-0.47
30位	29.技術開発	1.10	43.エネルギー	-0.48
31位	05.高等教育機関	1.09	36.高速交通網	-0.53
32位	34.広域交流・連携	1.05	32.職業能力開発	-0.54
33位	41.農山漁村づくり	0.97	37.道路の整備	-0.55
34位	21.希少な生物	0.96	09.スポーツ・レクリエーション	-0.58
35位	28.観光	0.93	22.ごみの減量	-0.58
36位	09.スポーツ・レクリエーション	0.92	24.川や海の水質	-0.60
37位	36.高速交通網	0.92	40.快適なまちづくり	-0.61
38位	42.過疎地域等の振興	0.86	04.青少年の健全育成	-0.65
39位	35.情報ネットワーク	0.84	38.公共交通機関	-0.69
40位	08.歴史・文化遺産	0.80	10.地域での防災の取組	-0.73
41位	33.国際化	0.79	13.防犯	-0.73
42位	06.市民活動	0.74	12.交通安全	-0.78
43位	07.文化・芸術	0.63	30.地域商工業	-0.86
44位	39.港の整備	0.62	31.雇用	-0.98
	重要度平均	1.29	満足度平均	-0.41

(5) 認知していない人のみの重要度、満足度プロット図

図 認知していない人のみの重要度と満足度の関係図（平成16年度）



認知している人のみを対象とした場合の重要度、満足度は全体的に拡がり小さく、回答者全員を対象にした場合と比較して右上に移行している。特に重要度は、全ての施策が1.0を上回っている。また、認知していない人のみを対象とした場合の重要度、満足度は、回答者全員を対象とした場合と比較して左下に移行している。いずれにしても、Aゾーンの項目については、全員を対象とした場合と比較してほとんど変わっていない。

認知している人と認知していない人とを比較すると、44項目全ての重要度、満足度は、認知している人のみを対象とした場合が認知していない人のみを対象とした場合を上回っており、施策の取組を知っているほど重要性を訴える傾向や、施策の取組を知っているほど満足している傾向がみられる。そのため、施策の重要性を理解し、満足してもらうためにはさらなる啓発活動が必要といえる。

例えば重要度について、認知している人としていない人との差が大きいものとして「港の整備」「文化・芸術」「歴史・文化遺産」「希少な生物」「国際化」等があげられる。このうち「歴史・文化遺産」は認知意識が49.4%と約半数、「文化・芸術」は認知意識が39.0%と約4割を占めているが、それ以外の項目は認知意識が25%以下であり、県の取組自体の認知度が低い項目である。したがって、これらの取組を今後積極的にPRすることにより、施策や事業の必要性について県民の理解の高まりが期待できる項目といえる。

また、満足度についても、認知している人としていない人との差が大きいものとして「医療体制」「スポーツ・レクリエーション」「公共交通機関」「飲料水の供給」「自然環境との共生」等があげられるが、特に「公共交通機関」は県民の3割程度(31.8%)にしか取組が認知されていない状況に置かれている。これらの項目は、取組内容を知ってもらうことで満足度があがる可能性を秘めた施策であるといえる。

表 認知している人と認知していない人とで差が大きい項目

重要度				満足度			
項目	認知している人 のみの重要度	認知していない人 のみの重要度	差	項目	認知している人 のみの満足度	認知していない人 のみの満足度	差
39.港の整備	1.16	0.75	0.54	18.医療体制	0.49	-0.47	0.96
07.文化・芸術	1.16	0.86	0.53	09.スポーツ・レクリエーション	0.34	-0.58	0.92
08.歴史・文化遺産	1.27	1.05	0.47	38.公共交通機関	0.15	-0.69	0.84
21.希少な生物	1.37	1.06	0.41	44.飲料水の供給	0.82	0.04	0.78
33.国際化	1.20	0.90	0.41	20.自然環境との共生	0.76	0.00	0.76

その中で、「防犯」「医療体制」「地域での防災の取組」「災害対策」「人権尊重」「川や海の水質」「飲料水の供給」等の重要度上位項目については、いずれも認知している人としていない人の重要度の差が0.1未満であり、認知していてもしていなくても重要度は高く、認知如何に関わらず重要と感じている人が多いことがうかがえる。

表 認知の如何に関わらず重要と感じられている項目

項目	認知している人のみの重要度	認知していない人のみの重要度	差
13.防犯	1.85	1.84	0.01
18.医療体制	1.83	1.79	0.04
10.地域での防災の取組	1.76	1.71	0.05
11.災害対策	1.77	1.71	0.06
01.人権尊重	1.65	1.58	0.07
24 川や海の水質	1.81	1.74	0.07
44 飲料水の供給	1.87	1.80	0.07